

経会陰式（えいんしき）前立腺生検 を受けられる患者さんへ

秋田大学医学部泌尿器科

前立腺癌の診断を確定する唯一の方法は、前立腺の細胞を採取することです。前立腺細胞を採取する方法としては当科でも経直腸的生検（直腸からの生検）が一般的ですが、下記に当てはまる患者さんには経会陰式前立腺生検を勧めております。

【経会陰式前立腺生検の適応】

下記の中で腫瘍マーカー（PSA）の上昇、直腸診の所見上、尚前立腺癌の可能性がある方。

当科経直腸的 10 カ所前立腺生検で癌が検出されなかった方。

他院の複数回前立腺生検で癌が検出されなかった方。

経直腸的前立腺生検が好ましくない方（肛門疾患や術後、疼痛、不安の強い方）

【経会陰式前立腺生検の方法】

入院は検査前日です。

当日は手術室で検査を行います。まず、脊椎麻酔という下半身麻酔を施行します。

足を上げる体位をとり、肛門から超音波検査の機械をいれ、まず前立腺の内部の様子を調べます。その後、直腸内腔からまたは会陰部から直径約 1.5 mm の針を前立腺へ向かって約 16 カ所刺し前立腺の組織を採取します。検査は約 30 ~ 1 時間で終了します。

検査後は麻酔の影響で数時間下半身が不自由なため尿道にカテーテルを留置します。翌日の朝には抜去します。

検査翌日出血、発熱等合併症がなければ退院可能です。検査結果は外来での説明となります。

【前立腺生検の合併症】

血尿

前立腺は膀胱の出口にあるため、検査後に血尿となることがあります。通常は 2、3 日で肉眼的には消失します。しかし血尿が強い場合は、入院または入院期間を延長して対処したり、輸血が必要となる場合があります。また狭心症、脳梗塞などのため抗凝固剤（血液を固まりにくくするお薬）が投与されている場合は、薬の内服を 7 日間以上中止する必要があります。受診時には必ず現在飲んでいる薬を持参してください。抗凝固薬、抗血小板薬としてよく使用されるのは、バファリン、パナルジン、パナピジン、ワーファリン、エパデールなどです。これらの薬を内服されている方は担当医に申し出てください。

血便

生検は直腸からも前立腺に向かって針を刺しますので、検査後は直腸粘膜から多少の出血がみられます。検査後に 5-10 分程度、針の刺し口の周辺を指などで圧迫し、超音波でも止血したことを確認

した上で検査を終了します。しかし、直腸からの出血が強い場合には入院または入院期間を延長して、止血処置や点滴、輸血が必要となる場合があります。

骨盤内出血

前立腺癌は前立腺の外側に発生しやすいことから、生検は主に前立腺の外側をねらって組織を採取します。検査中は超音波で針を刺す部位を確認しながら行いますが、まれに前立腺の周囲に出血し血腫（血液の固まり）をつくる場合があります。少量であれば全く問題はありませんが、出血の量が多い時には点滴や輸血が必要となる場合があります。

感染

手術室で清潔に行いますが、異物を穿刺しますので一定の確率で感染が起こり、発熱や穿刺部の腫脹を引き起こすことがあります。入院中であれば抗生剤治療の追加などが必要になり入院が延びることがあります。また、退院後高熱が出現することもあり、その場合は再入院の可能性も考慮した上ですぐに連絡をください。

尿道出血・血精液症

検査後下着に血が付いたり、尿の出始めに血が出たりすることがあります。また精液に血が混じり、赤色から茶褐色になることがあります。これらの症状がしばらく続くこともありますが、通常健康への影響はありません。

麻酔の合併症

頻度は高くありませんが、背中からの麻酔の影響で神経損傷や頭痛が術後続くことがあります。

【生検後の注意点】

生検によって前立腺は炎症を起こします。そのため以下のことを守ってください。

アルコールは1週間控えてください。アルコールは血管を拡張する作用があり前立腺の炎症を助長する事があります。

自転車やバイクも1週間は乗らないでください。機械的に炎症を増悪させることがあります。

長時間（2時間以上）座ったままにいることも好ましくありません。

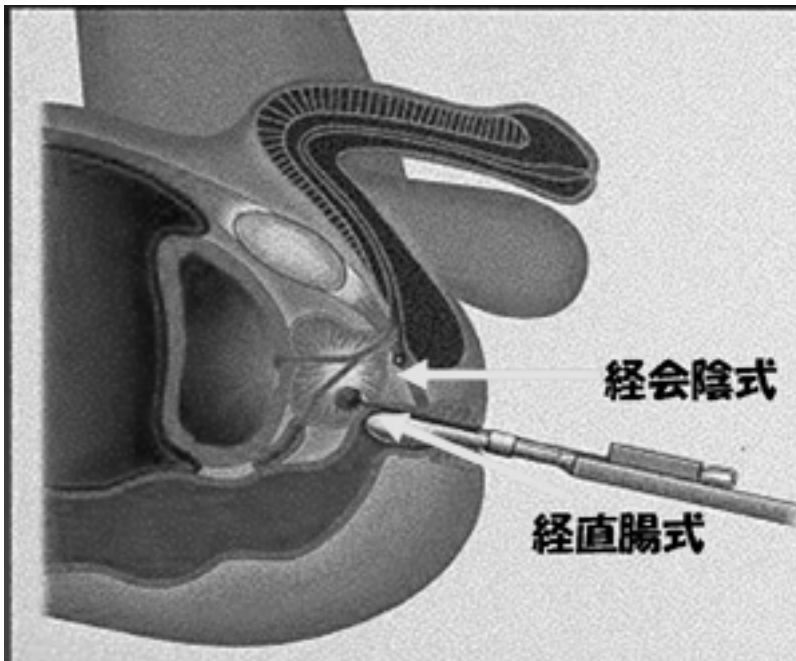
細菌感染予防のため、4 - 7日間程度、抗生物質を服用していただきます。

【生検の結果と陰性の場合の注意点】

生検の結果は2週間前後で判明します。結果については担当医より説明があります。

癌が検出された場合は、病気の進展度（広がり）を検査した上で、最も適当と思われる治療法の相談をご本人、ご家族を交えて行っています。

癌が検出されなかった場合は、ほぼ大丈夫と判断されます。しかし癌が存在しているのに針が当たらなかつたり、非常に小さな癌で発見できないこともあります。癌が見つからなかった方でも、定期的（3か月から1年ごと）に血液検査などを受けることをおすすめします。その後もやはり癌の存在が疑われる場合は、再度生検をおすすめする場合があります。



私は 年 月 日に予定されている、前立腺生検の必要性和合併症や注意点について下記の医師により説明を受け理解しましたので、その実施に同意します。

年 月 日

患者氏名（自署）

代理人（自署）

（ 続柄 ）

説明者

秋田大学医学部附属病院泌尿器科

医師（自署）